いい町　利根町　あなた待ち

TONE

5

May.　2023

No.710

広報とね

利根町花物語

シリーズ　まち・ひと・しごと #49

第1話　Kanon － Flower & Green －

利根町花物語

シリーズまち・ひと・しごと　＃49

Kanon　-Flower & Green-

今月の「シリーズまち・ひと・しごと」は、「利根町花物語」と題して、利根町のお花屋さんをご紹介します。
第一話となる今回は、中田切の県道沿いにある「Kanon（カノン）」さんです。
店頭にはずらりと並ぶ豊富な種類の花苗。ガーデニング好きの方が県外からも多く通うお店です。利根町で花屋を続けて約43年。ここ数年は、ワークショップの開催やマルシェへの出店などを通して、新たな客層も増えてきたそうです。
「Kanon」さんの今までとこれからについてお話を伺いました。

約500アイテムを取り扱う。花苗は入荷のたびに全体の色のバランスを見て配置を変えているそう。いつ来てもワクワクする売り場はそういった工夫から

家族4人で営む花屋

父、正（ただし）さんがサラリーマンを辞めて利根町で花屋を始めたのは昭和55年、今から43年前。早尾にあったリブレ京成というスーパーの中で始めた花屋が最初のスタートでした。それから移転などを経て、26年前に現在の場所に移り、「カノン」としてオープンしました。

現在は、家族4人でお店を営んでおり、仕入れも分担して行なっています。市場での切り花は正さんと長女の友美（ともみ）さん、市場での花苗は正さん、生産者からの花苗の仕入れは次女のまゆみさんがそれぞれ担当しています。繁忙期には週3回、

左から父・青谷正（あおやただし）さん、長女・田村友美（たむらともみ）さん、母・青谷美津子（あおやみつこ）さん、次女・立木（たちき）まゆみさん

早朝3時半に出発し、東京の大田市場まで仕入れに行くそうです。

「市場に5時前に着くように行っています。7時から始まる競り場の下見に2時間はないと」

そう話すのは父の正さん。現在はインターネットで自宅からでも競りに参加できるようになりましたが、必ず市場に行って仕入れをするようにしているそうです。

「昔と違い、生産者さんは減っていますが、年々いろいろな種類のお花が出てきています。珍しい種類は市場の競りに出回らない物も多く、生産者の方と直接やりとりをしたりなど、市場以外からも仕入れています」

店の販売は4人で行なっており、一人一人のオーダーに合わせて丁寧に作られるアレンジメントも人気です。母の美津子さんも、お花を通して多くのお客さんと接し、さまざまなオーダーを受けてきました。

「利根町を離れた方から、ご家族へのお花の注文を電話でいただく事もあります。遠くに行っても注文をしてもらえる事、ありがたいなと思います」

切り花の仕入れから担当している長女の友美さん。「お花をあげる人ともらう人のどちらにも喜んでもらえるように心掛けています」年齢や好みなど、わかる情報からその人に合った仕上がりにするそう

マルシェへの出店をきっかけに生まれた変化

二女のまゆみさんがお店で働くようになったのは今から約18年前。結婚や出産を経て、現在は子育てをしながらお店のさまざまな事を担当しています。4、5年前からは、姉の友美さんと一緒に、ワークショップの企画運営、マルシェへの出店、雑貨の仕入れ、リースやスワッグの製作など、新しい事にも精力的に取り組んでいます。まゆみさん自身、ここ数年で仕事との向き合い方が変わってきたといいます。

「以前は次々と入荷してくる花苗の世話をするだけで精一杯で、リース作りや雑貨の仕入れをする余裕は全くありませんでした。そんな中でも、自分が選んだ雑貨や、作ったリースなどを売りたいと思い、5年前初めてマルシェに参加しました。ほとんど売れなかったんですけど、それでも自分の選んで持って行ったものをかわいいって言われた事がすごく嬉しくて」

そこから少しずつ、町内外のマルシェに出店するようになり、それをきっかけにお店に足を運ぶお客さんも増えてきたといいます。

マルシェの出店を機に、インスタグラムでの発信やワークショップの開催など、新しい動きにつながっていき、より多くの世代にお店の存在が知られるようになったそうです。

幅広い世代から人気のワークショップ

季節によって内容が変わるワークショップも、幅広い世代から人気です。内容は友美さんとまゆみさんの二人で話し合って決め、開催当日も協力しながら進めます。

ワークショップを本格的に始めたのは一昨年の10月から。お店の奥に元々あったハウスを撤去し、空いたスペースを利用して、以前からやりたかったワークショップのための小屋を作ったそうです。

まゆみさんはワークショップを始めた理由について、次のように話します。

「普段お花に触る機会がない人にも、お花の楽しさを伝えるきっかけになればいいなと思って始めました。お客様の中には、子育て中のお母さんがちょっとした息抜きとして、一人で集中する時間を持てるという事で参加する方もいます。お子さん連れの方もいるし、ご年配の方で寄せ植えが家だと上手くできない、という方も参加してくれています」

ワークショップを開催することで、お客さんとゆっくり話す時間が取れるようになり、情報交換の場にもなっているそう。そこで得られたお客さんの声をワークショップや仕入れに生かすこともあるのだとか。

1. かわいいものがたくさん揃っていると評判の雑貨 2. 群馬県片品村まで足を運んで仕入れたピンク色のアジサイ「ミナヅキ」を使ったフライングリース。他の生産者のものよりも花弁が厚く、色がきれいに残るのが特徴 3. プランツギャザリングという新しい技法も学びに行って取り入れたそう。「花に関して新しいものを見ると挑戦したくなりますね」とまゆみさん。4. リースやスワッグはいろんな形がありワークショップでも人気 5. 流山市でマルシェに出店した時の様子。雑貨やリース、スワッグなど種類豊富にディスプレイ

町を盛り上げる一員になれたら

これからの展望について、まゆみさんに伺いました。

「このままできる限り長く4人でやっていけたらと思っています。20代の頃にはわからなかった、親と一緒に働ける喜びや、土台となるお店があるありがたみを、今は本当に実感しながら働いています。以前は目の前の事をこなすので精一杯で、お花を好きという風に思えなかったけど、今はすごく好き。本当に、ずっと触っていないと落ち着かないぐらい」

家族だからこそ、本音でぶつかる事も。「でも向かっている方向は一緒で、一生懸命やっている証」と、笑顔で話すまゆみさん。

「利根町で同じ世代の人が新しいお店を始めたり、お店を継いだりして頑張っている人の姿が、すごく私のエネルギーになっていて。利根町って良いお店がいっぱいあるなと思うと同時に、自分も頑張らなくては、という気持ちになります。私も、利根町を盛り上げる一員になれたらと思います」

長年培ってきた知識と経験を土台に、時代の変化に合わせて新しい事を取り入れる。親子2代、家族4人だからこそ作り上げる事のできるお花屋さんです。

Kanon-flower & green-

利根町中田切 107-2
9：00 ～ 18：30
定休日：月曜日
instagram ▶ @hanaoto.kanon

「姉が４年前位から本格的に一緒にやるようになってからすごく楽になった。一緒にやるって言ってくれると思っていなかったから、それが一番うれしかったです」

多肉植物の寄せ植えワークショップ

寄せ植えについてのレクチャーを受ける

かわいい器の中からお気に入りの物を選ぶ

好きな多肉植物を選んで器に植えていく

完成！保管場所や水やりなど、お世話のポイントも細かく教えてもらえるので安心

workshop coya

ワークショップ専用スペースの小屋。参加した方からは、「いろんな種類のワークショップがあって楽しい。以前からお花を買いに来ていたけど、ワークショップに参加するようになって、お花の話がゆっくりできてうれしい」という声も。